

コラム

# みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.47

## 居心地の良い社会の実現をめざして

秋の新番組がではじめました。お気に入りドラマ「きのう何食べた？ シーズン2」が放送されると聞き喜んでいたのもつかの間、残念なことに深夜枠に組み込まれております。ある時期から夜11時には就寝するようになった私は断念せざるを得なくなり、代わりにTverなどを利用して楽しもうと思います。

このドラマは人気番組なのでご存じだとおもいますが、同性愛カップルのお話です。人気俳優の西島秀俊さんと内野聖陽さんの熱演に定評があるばかりか、同棲する2人の美味しそうなお飯シーンが多く、作り方で楽しんで参考になる「グルメドラマ」とも言えます。

先日、みやちゃんこと宮原富士子さん（台東区健康サポート薬局「ケイ薬局」薬局長）から急ぎで、「すご〜く頭にきている案件だから、発言者が何を話したか一字一句もらさず音源おこしをしてほしい」と依頼されましたので、いろいろ納品案件が重なっておりましたが、優先順位をつけて着手しました。

すると、すでにネットや新聞では話題になっていたようでした……。

台東区議会において自民党所属の松村議員が、LGBT理解増進法が成立したことをうけ、区内における取組みについて一般質問したのですが、「性的少数者にたいする差別や偏見はあってはならないとしつつ、性の多様性に関する教材による偏った指導は児童を混乱させ同性愛に誘導する」と発言し物議をかもしました。

その後、議員は謝罪しましたが、ご自身の発言のどの部分がひっかかっているのか本当に理解しているのかどうか疑問に感じ釈然としない思いが残りました。政治家による“とんでも発言”はこれまで多くあり珍しくはありませんが、国政と違い自治体の政だから、さほど注目されないとも考えておられたのでしたら、意識そのものに問題があるといわざるを得ません。

多様性を重んじる社会においては、マジョリティーのためだけの社会ではなく、誰でもが居心地のよさを感じる社会の実現をめざし、そうなるような努力を続けることこそが重要です。台東区民の私は、定期的に配布される区の広報紙やHPもしっかり目を通してつもりですが、今後こんな発言がでるようならば、区議会を傍聴する機会を持とうかと考えております。

“とんでも発言”は続き、今度は埼玉県で問題が浮上、こちらはかなり炎上しました。自民党埼玉県議会で、子どもの虐待禁止条例案の中に、子どもだけの登下校や留守番を禁止する、などといったとんでもない事柄を「虐待」にあたるとして条例に盛り込んでしまったのです。

ニュース組を見ながら夕飯を食べていた私は、唾然として箸を落としそうになってしまいました。さながら国民の生活を十分にリサーチして熟知しているかのような得意顔で発言されている様は、「講師、見てきたような嘘をいう」だったからです。そういえば、昔はよく台東区内の演芸場で講談や落語を聞いたものだなあ〜と懐かしく思い出しながらです。

他にも驚くべき内容ばかりですが、この条例がまかりとおるならば、現代社会において子育てをしている人々の半分以上は「虐待」することになるでしょう。

結局、市民の猛抗議をうけ本条例案を取り下げることになりましたが、一体どうしてこんな不当な条例を考えるに至ったのか、反対の声があがると予測しなかったのかどうかなど、誰もが知りたいところです。

子どもを虐待の憂き目にあわせないことはもちろん大事ですが、私たちが日々のニュースで見聞きしている親が子どもに対する虐待事例とは大きな隔たりがあります。

経済的に苦しい家庭の親は、子どもを保育所や学童にあずけながら働かなければなりません。一人親世帯ならば、もっと深刻なはずですが。

経済的に豊かな家庭の親は働く必要がないだけに、しっかり子どものケアに時間がとれることでしょうか、病気やけがなどの理由で十分なケアができない可能性も否定できません。

この問題、誰もが茫然自失状態だったのではないのでしょうか。

国民選挙によってえらばれた国政や市政の議員とよばれる仕事をしている方々は、選挙時にはまるで国民の暮らしを全部みてきたような発言を声高にし、頭をさげながら「私に任せてください」とお願いをされますが、本当に私たちの暮らしぶりを理解しているのかどうか、寄り添った政治をしようとしているのかどうか心配でなりません。自分たちが決めた価値観の押しつけはやめていただきものです。

海の向こうではまたしてもイスラエル・パレスチナ問題が浮上し、戦火の中、多くの生命が失われていています……。涼しい季節になり、スポーツの感動を楽しんでいましたが、国内外の驚くべき事件でぐったり疲れ、そのせいであちこち不調がでてしまいました。みやちゃんに健康相談しなくては！

※HAP <http://www.hap-fw.org/>

<参考> <https://www.asahi.com/articles/ASRBB4SD4RBB0XIE02C.html>

<9-20 台東区議会における松村議員一般質問一部>（音源おし原稿より）

令和6年度から使用される保健の教科書では、検定に合格した6社全部の教科書で性の多様性をとりあげました。こうした中、道徳の教科書では同性婚の法的容認を求めるような編集もみられます。こういった教科書で学べば、指導する教員によっては同性婚や選択的夫婦別姓といった制度を認める世の中にしていかなければならないという、一方的な指導が子どもに植え付けられる可能性があります。子供を混乱させるのではなく、思春期の子供が自己を肯定できるような教育こそが重要なのです。

民間の調査によると、日本には約3～10%の性的マイノリティーに属する人がいるといわれていますが、率直にもうあげますと、私の周辺の方々からあがってくる様々な声と調査結果では大きな隔たりがあると感じています。

幾つかの調査結果について詳細を調べてみると、調査方法が不明瞭だったり調査項目が誘導的であったり、インターネットで不特定多数の方々に回答を求めるものであったり、実情を正しく反映しているかについては疑義があると感じています。

この数字の算出法が不明確である中で、そもそもこの理念法のゴールはいったいどこにあるのでしょうか？

[「偏った指導で同性愛に誘導」学校教育めぐり東京・台東区議が発言：朝日新聞デジタル \(asahi.com\)](#)